

解答のヒント

こんにちは。近頃急に冷え込んできましたが、体調など崩されていませんか。そろそろ入試が近づいてきて、不安を感じている人もいるかもしれません。ですが、焦りは禁物です。自分のペースで着実に実力を積み重ねていきましょう。

さて、今回扱うのは「美術館」についての話題です。皆さんは、美術館についてどのようなイメージを持っているでしょうか。普段からよく利用していて、すでにその魅力を知っている人もいるでしょうし、ほとんど行ったことがないけれど、なんだか難しそうな場所だと感じている人もいるでしょう。しかし、「静かに芸術作品を鑑賞する場所」というイメージは、多くの人に共通しているのではないのでしょうか。

このようなイメージのある美術館ですが、近年、スマートフォンで作品を撮影することが許可される事例が増えたことで、SNSなどを通じて様々な人の話題に上っているようです。しかし、作品の撮影を許可することには懸念もあるといいます。今回は美術館という施設のあり方について、スマホを手掛かりに考えてみたいと思います。

○記事を読む

今回の記事では、美術館でスマホの活用が広がっていることが紹介されており、それを踏まえて、今後美術館はスマホとどう関わっていけば良いのか、問題提起がなされています。スマホ活用の一側面として、昨今、館内での写真撮影を許可する美術館が増えていることが取り上げられています。来館者がSNSで情報を拡散することで、宣伝効果が得られるなどの利点があるようです。一方で、作品を撮影すること自体が目的になってしまい、肝心の作品と直に向き合う体験が変質してしまうとの懸念が指摘されています。

○自分の立場を示す

記事の趣旨をつかめたら、論の方向性を考えていきましょう。今回の問いは、美術館がスマホの活用を推進することについてどう考えるか、賛成（推進論）か反対（慎重論）の立場を明示して述べるというものです。したがって、まずはスマホ活用の推進に賛成するか反対するか、自分の立場を明確にしましょう。

こうした問題について、「賛成と反対のどちらで書けば良いのか」という質問をよく受けます。2つのうちどちらかを選ぶという場合、どちらかが正解でどちらかが間違いのように感じてしまう人が多いようです。このような問いでは、多くの場合、どちらの立場を選んでも評価に変わりはありません。大事なのは、どちらの立場を選ぶかよりも、なぜその立場を選んだのか、納得できる理由を示して論理的に説明することなのです。つまり、先ほどの問いに答えるならば、賛成と反対のどちらを選んででも良いということです。（実際の入試を見ていると、問題によってはどちらか片方の立場の方が書きやすい場合や、どちらか一方の立場を選んでしまうと倫理的に問題がある場合もありますが、あまり多くはありません。）

今回の問題は特に、賛成と反対どちらの立場をとることも考えられるでしょう。注意してほしいのは、まず初めに自分の立場をはっきりと示すこと、そして、なぜその立場を選んだかという理由を明確にすることです。

○異なる立場の意見を考慮する

自分がその立場を選んだ根拠を説明する際には、自分の選んだ立場にはこのような利点がある、このように本質をついている、など、様々な角度から良い点を説明していくことが考えられます。しかし、ただ自説の立場だけを強調しても、視野の狭い論になってしまい、異なる立場の人にも納得してもらえない文章にはなりません。逆の立場の人がどのように考えるかを考慮して自説を見直すことで、さらに説得力のある論を組み立てることができるのです。

例えば、賛成の立場では、「撮影に夢中になることで作品と直に向き合う体験が疎かになってしまう」という反対側の意見をどう受けとめるか考えてみましょう。すると、「美術館による啓発活動を行う」などといった解決策を示すことができます。このように、反論に対するフォローを入れることで、自説を補強することができるのです。また、反対の立場では「SNSによる宣伝効果が見込まれる」「スマホの普及は後戻りできない」などの賛成側の意見をどう受けとめるのか、述べてみましょう。このとき、逆の立場に対して単に反発するのではなく、むしろその一部を認めることで、視野を広く持った柔軟な主張が可能になることがあります。(解答例1・2参照)

ただし、自分とは異なる立場の意見に触れる際に注意しなければならないのは、論がぶれないようにすることです。例えば、賛成側で書いていたはずが反対側の立場に関する記述の方が多くなってしまったり、反対側で書いていたはずが賛成側に関する立場の方が説得力のある記述になってしまったりするような場合です。これでは、自説の説得力を強めるどころか主張が伝わりにくくなってしまいます。あくまで自分の立場を主軸に置き、一部で異なる意見に触れるという形が望ましいでしょう。

○視野を広げる

上記では自分とは異なる立場を考慮に入れることについて説明しましたが、自分の立場を曖昧にせず、逆の立場の視点までをカバーするのは簡単ではありません。これができるようになるためには、ある程度の練習が必要です。

たとえば、今回のような問題では、美術館におけるスマホ活用の推進の良い点・悪い点を思いつく限り書き出して整理してみましょう。できるだけたくさん出そうと考えることが、視野を広げるトレーニングになります。また、復習の際には、自分の意見とは異なる立場からの小論文も書いてみると、さらに力がつきます。

1つの問題からできるだけ幅広い立場を考えてみることで、自分の考えを広げることができます。入試本番でどのようなテーマが問われても良いよう、今のうちに考えの幅を広げ

ておきましょう。

○終わりに

今回は美術館のあり方についてのテーマを扱いました。芸術論は特に文系の学部の小論文や現代文入試で頻出のテーマです。関連するテーマの文章を読んで、知識を増やしておく
と今後役に立つでしょう。

また、今回は触れませんでした。芸術作品を写真に撮ってSNSに投稿することは、作者や美術館の著作権の問題にも関わってきます。こうした問題も含めて、今後このテーマでは議論の幅が広がっていくことでしょう。

今回の美術館やSNSなど、身近なところに議論のきっかけは潜んでいます。ぜひ、幅広くアンテナを張って、いろいろな問題について自分の意見を明確にする練習を積んでみて下さい。

(須田 若菜)